

# 日本看護歴史学会 會報

日本看護  
歴史学会  
第53号  
2010年1月15日



## 日本看護歴史学会 開始24年目を迎えて

### 歴史研究を活性化するための取り組み

日本看護歴史学会副理事長 高橋 みや子 (京都橘大学)

日本看護歴史学会は発足して24年を経た。当初からの懸案事項であった看護歴史研究方法、看護歴史関連史・資料の保存と活用については、どのような状況であろうか。

1. 研究方法については、学術集会発表時にはできるだけ多くを発表していただき、原著として学会誌掲載時には査読基準に基づき厳密な審査することで運用されている。しかし、発表に際しては、先行研究の未調査、原史料又は文献収集がされてない等、基本的なことの欠落が指摘されている。この状況に対して、学会の研究活動推進委員会担当理事は、毎年「研究方法」関連の企画を立て、学術集会交流セッションで、例えば「看護の歴史研究のあり方をめぐって」、「看護歴史研究の今後の課題」、「これだけは備えておきたい～歴史研究のキーワード」等をテーマに話題提供し啓発を行い、要旨は日本看護歴史学会誌、No.21、40-55、2008、No.22、36-43、2009に掲載されている。

歴史学とは、史料を媒体として過去の諸事実を認識する学問である。それは厳密な手続（実証的方法）に則って史料より導き出される史実に基づいて、一つの歴史像を構築することで、単なる歴史叙述とは区別されているとされてきた。しかし、近年、文献史料の偏重を反省する形で、従来あまり活用されなかった史料を取り上げ幅広い歴史解釈が提唱され、また、隣接分野との学問交流も図られつつある。このような趨勢の中で、看護歴史研究にも多様な研究方法が導入され始め多少の混乱を生じている。混乱を防ぐためには研究方法毎に史料・資料収集、整理、解釈、論文作成等のポイントを明確にする時期に来ていると考えられる。

2. 看護関連史・資料の保存と活用について、現在、組織的に収集・保存・活用を実施しているのは、日本赤十字看護大学史料室、看護史研究会の2箇所のみで、増加しない状況である。

しかし、当面、予算等を整えられなくても個人の意志があれば実施可能なことは、高精度スキャンの活用によるCDへの保存である。次に、個人所蔵による四散を防止するため、学部資料室・研究センター、大学図書館、郷土資料館、各県看護協会等々に協力を求め場所を確保する。その後、所蔵目録を作成して公表し、閲覧・コピーサービス等へ対応できる体制を整えることができる。所蔵物は、写真、論文、学校史、聞き取り資料、個人活動、職業団体・活動史等々、自分たちの足跡に関連するもの何でも……OKです。広報を活用して、取り組み状況を紹介しあい、情報交換しませんか。

3. 写真の出典・所蔵元を明示することについて、最近、看護教育史関係の写真を求めて、同志社社史資料センター、日本赤十字看護大学史料室、財団法人緒方記念会を訪問し、また看護史研究会にも写真の提供を依頼しました。その時、気づいたことは、一部ですが、写真が掲載されている文献等に出典や所蔵元が明記されず、所蔵元へ出版物が寄贈されていない実態があることです。出典や所蔵元を記載しないことは孫引きになり倫理に反する事です。同志社社史資料センターには、故亀山美智子さんの寄贈論文と写真借用の礼状が保存されており、感動しつつ、亀山さんに改めて教えられました。



## 日本看護歴史学会第24回学術集会の開催について

学術集会長 三上 れつ

会員の皆様におかれましては、新しい年祝を迎えられ、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ご案内のとおり、第24回学術集会は、2010年9月19日（日）・20日（月・祝日）の2日間、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにおいて開催することになりました。

今年は、湘南藤沢キャンパス開設20年目、看護医療学部開設10年目にあたります。慶應義塾大学は2008年に創立150年を迎えましたので、テーマは福澤諭吉の教育基本方針である「実学」をもとに、看護の原点にたちもどって歴史を振り返り、現時点を確認して未来をひらいていきたいと考え、『今、実学を問う—歴史にみる看護教育実践活動—』と致しました。福澤は、すぐに実地で役立つ教育を批判し、「すぐ役立つ人間は、すぐに役に立たなくなる」として、「実学」とは実地に活用される学問ではありますが、実証的合理的に真理を解明しようとする科学的姿勢（サイヤンス）を本意としております。

今、様々な意味で模索し続けているわが国の看護教育実践活動について、先人たちが作り上げてきた歴史から学び、皆様とともに看護の本質を再考し、看護における史実をどのように蓄積していくことが必要なのかを考える機会にしたいと思っております。1日目は皆様の移動もありますので、午後から特別講演、教育講演を中心とし、2日目は看護医療学部校舎で、皆様の研究発表（口演・示説）や交流セッション、ワークショップ（分科会）

等を計画しております。

特別講演では、実学を実学思想史・実学教育史の観点からご講演いただき、看護学における実学について再考できるようにと考えております。また、教育講演Ⅰでは、F. ナイチンゲールと福澤諭吉は、いずれもイギリスの思想家 J. S. ミルの影響を受けておりますので、その思想の流れについてお話していただき、教育講演Ⅱでは、正史では見えないものを史実として残していくオーラルヒストリーの意義について予定しております。

会場となる湘南藤沢キャンパスは交通が少し不便ですが、横浜にきてしまえば、みなとみらいや横浜中華街、鎌倉もすぐそばにあります。皆様にご満足いただける学術集会となるように、企画委員・実行委員一同、準備に専心・努力いたしますので、会員の皆様の研究発表・ご参加をお待ち申し上げます。



お問い合わせ先 事務局

〒252-0883 神奈川県藤沢市遠藤4411

慶應義塾大学看護医療学部内

日本看護歴史学会第24回学術集会事務局

TEL&FAX 0466 (49) 6267

E-mail: 24rekishi@sfc.keio.ac.jp

学会 HP アドレス:

<http://24kangorekishi.sfc.keio.ac.jp/>

## 〈プログラムのご案内〉

19 日 (日)	12:30~	開場・受付	13:00~オリエンテーション
	13:10~	会長講演	「未来をひらく—看護における史実の蓄積と重要性—」 三上れつ（慶應義塾大学看護医療学部教授）
	14:00~	特別講演	「実学をひも解く—教育の発想転換—」 小室正紀（慶應義塾大学経済学部長）
	14:50~	休憩	
	15:10~	教育講演Ⅰ	「J. S. ミルからの影響—ナイチンゲールと福澤諭吉の実学思想」 白井堯子（千葉県立衛生短期大学名誉教授）
	16:00~	教育講演Ⅱ	「医療史研究の課題—オーラルヒストリーの意義—」 山内慶太（慶應義塾大学看護医療学部教授）
	16:50~	連絡事項	
	17:00~	懇親会	ファカルティクラブ「タブリエ」
20 日 (月)	9:30~	開場・受付	
	10:00~	研究発表	口演・示説・交流セッション
	12:00~	総会・昼休み	軽食をご用意しております（無料）
	13:00~	ワークショップ 研究発表	研究推進委員会主催 交流セッション
	15:00	閉会	

# 日本看護歴史学会 第23回学術集会を終えて

第23回学術集会会長 内田 郷子

日本看護歴史学会第23回学術集会を盛会の中に無事終了出来ました事は、会員の皆様をはじめご参加下さいました皆様のご支援とご協力のお蔭だと深く感謝しております。心から御礼申し上げます。

さて、今回会場となりました聖路加看護大学の場所は、明治後期、宣教医師として来日したルドルフ・B・トイスラー博士が医療活動を始めた場所です。博士は、この外人居留地に小さな診療所を開き、徐々に発展させて病院をつくり、また病院で働く看護婦を養成する教育施設をつくってきました。こうして産まれたのが聖路加国際病院と聖路加看護大学であり、この様な地において伝統ある日本看護歴史学会の学術集会をお引き受けすることになったことは、聖路加国際病院・聖路加看護大学の看護に関わってきたものとして大変有り難く光栄に思っている次第です。今回の学会のテーマは、『「戦前・戦後の看護の礎」—看護教育と実践の発展をさぐる』としましたが、日本の看護が、戦前戦後の大きな変革の中で、新しい看護の取り組みをしつつも故きよきものも大切に継承してきたことを確認したい思いからこのテーマをつけました。

参加者は予想を上回り 2 日間で 233 名でした。特別講演は「看護におけるケアの考え方の歴史」として日野原重明先生（聖路加看護大学理事長・聖路加国際病院理事長）。教育講演として「1927年の

Alice. C. St. John のレター」菱沼典子先生（聖路加看護大学教授）、「築地にはじまる女子教育」大濱徹也先生（筑波大学名誉教授）、「キリスト教と医療」関正勝先生（立教大学名誉教授）のお話がありました。諸先生方の御講演は奥が深く刺激される内容でした。

口頭の研究発表は15題、示説は18題となりました。また交流セッションも5題あり参加者間での意見交換も活発だったように伺っております。しかし、交流セッションについては、話題提供者のプレゼンテーション時間をやや多くとり過ぎ、参加者間の意見交換が十分でないのご意見もありました。次期学術集会でご検討していただきたいと思っております。オプションのプログラムとして、聖路加看護大学界隈の歴史散策と聖路加国際病院の見学を企画しましたが、何れも大会前に定員となりご希望された皆様に応えることができず苦しく思っております。申し訳ございませんでした。

聖路加は、病院の歴史としては約110年、大学の歴史は約90年ございます。その間、聖路加の看護はつねに先端を走ることに努力し、立ち止まって振り返ることをあまりしてこなかった様に思います。今回、学術集会を開催する機会を与えられ、聖路加の歴史についての講演や研究発表をするにあたり、改めて医療機関や教育機関におけるアーカイブズの重要性を再認識することができました。本当に有難うございました。



教育講演Ⅱ：大濱徹也先生



聖路加看護大学歴史写真展



会場風景

## 日本看護歴史学会第23回学術集会収支決算報告

開催日：平成21年 8 月 20（木）・21日（金）

### 収入の部

収入費目	予算額(円)	決算額(円)	備 考
学術集会補助金	200,000	200,000	
学術集会参加費	1,050,000	1,625,000	事前申込 7,000円×125人 (875,000円) 当日参加 8,000円× 88人 (704,000円) 学生参加 2,000円× 16人 ( 32,000円) 病院ナース 3,000円× 2人 ( 6,000円) 2日目途中参加者 4,000円×2人 (8,000円)
講演集販売	0	1,000	講演集のみ購入 1冊1,000円
懇親会参加費	175,000	200,000	2,500円×80人
広告掲載料・ 展示販売費	0	150,000	広告3社×10,000円、出展6社×20,000円
利 子	0	54	郵便口座利子
収入合計	1,425,000	2,176,054	

### 支出の部

支出費目	予算額(円)	決算額(円)	備 考
学術集会 補助金返済	200,000	200,000	
当日運営費	577,000	898,713	会場使用料・警備費・弁当代・協力員謝金等
懇親会経費	175,000	175,630	
通信・運搬費	64,000	206,600	HP 作成・管理費を含む
講師謝金・ ツアー謝金	250,000	186,260	
印 刷 費	104,504	363,710	抄録、封筒、ちらし等印刷
事 務 費	54,496	100,764	
余 剰 金	0	44,377	
支出合計	1,425,000	2,176,054	

余剰金 44,377円は日本看護歴史学会に寄付いたしました。

## 日本看護歴史学会第23回学術集会に参加して

平塚共済病院 多田 恵美子

私は2003年青森での学術集会に初めて参加しました。当時は大学3年生。今年で看護師5年目を迎え、今大会で5回目の歴史学会参加となりました。

二日間のプログラム中で特に強く印象に残ったのは「聖路加に学んだ保健師 高橋政子と小林富美栄の足跡に学ぶ」でした。

高橋政子氏（大正4年生まれ）は、岡山で看護婦と助産婦の免許を取った後、家族の反対を押し切って聖路加女子専門学校公衆衛生看護学専攻第一期生として入学しました。卒業後は、昭和16-18年の2年間、私が今住んでいる近くの旧成瀬村（現在の神奈川県伊勢原市）で保健婦活動をしていたことに不思議な縁を感じました。

戦後、高橋先生は「保健婦として富国強兵政策のお先棒をかついだものとして、戦争の加担者である。」と自分を反省し、保健婦や助産婦として働く傍ら草の根平和運動に活躍しつづけ、戦前から戦後の看護史を残すため看護史研究会の発足にも力を入れたそうです。

高橋先生が生きた時代は、大正元年生まれの祖母と同じ。祖母は家族と喧嘩し10代で看護婦になるた

めに群馬から家出して上京し、看護婦免許を取得したと聞いています。私になぜ、看護史に魅せられるのか？今は亡き祖母が看護婦として生きた時代を追っているのでしょうか？歴史学会に参加していつも思うのが近代日本の看護を築いてきた先人達の先見性とパワーです。いつの時代も、熱い思いを持った人が集まって動いて歴史が作られている。当時を生きた人たちも、自分達にできることに頑張るのだと一生懸命だったのではないのでしょうか？

今年、私はICN南アフリカ大会に参加しました。現在、仲間とともにICN参加促進ブログを書いています。（歴史学会のことも記事に書かせていただきました。）合言葉は「やる気・継続心・看護への思い！」ですが、先人達にもこの思いがあったと感じます。歴史から学び発展させていくことが後を引き継ぐ私たちの使命と、看護師として頑張っていきたいと強く思います。

ブログ「ICN・CNRへ行こう！」

<http://cnr-wakuwakuproject.seesaa.net/>

## 第35回一般法人日本看護研究学会学術集会

招聘講演「歴史研究と看護実践—歴史の記憶と看護専門職にとっての重要性—」を聴いて

栗原 房江

2009年8月4日（火）、トロント大学看護学部教授シオバン・ネルソン氏の講演を聴いた。ネルソン氏は講演を通じて、医療制度をはじめとする政治的な問題、医師との関係や新人教育に関する困難は、看護の専門職としての歴史上、繰り返し生じている事象であると述べられた。つまり、現代の看護職に関する様々な問題や困難を解決するにあたり、鍵に相当する部分は、専門職としての歴史に含まれていることを示されたのである。

しかし、現代の看護職は、専門職としての歴史を知る以前に、歴史の記憶を消し去りつつあり、危険な方向へ向かっていると力説された。より良い未来を創るためには、専門職としての歴史を知り、看護関連の世界的な出来事や専門職的な進化などを、目撃者として次世代へ伝えてゆくことが必要であると述べられた。「看護職は、専門職としての歴史を知らない。歴史のないところにアイデンティティは存在しない。」というネルソン氏の一言は、今回の講演への想いを最も端的に表しているように感じた。

この一言より、看護の歴史に興味を抱くこととなった契機を思い出した。それは、恩師である吉田時子先生より、昭和10年代の聖路加女子専門学校の様子を伺ったこと、同時期に祖母（故人）も産婆として都立荒川助産院にて働いていたという話を祖父より聴いたことである。

今回の講演を通じて、看護の歴史を知ること

に加え、看護の歴史に興味を抱く契機となった先人達との関わりも思い起こすことができた。先人達との関わりに倣い、私も自らの経験を次世代へ伝えていくことをライフワークにしたいと思う。

余談—シオバン氏のスライドには、多くの日本人看護職も含まれ、その情報収集力に圧倒された。中でも、1940年代の日系人看護職の自信に溢れた表情のスライドに魅かれた。後日、遅まきながらシオバン氏の著書「黙して、励め」を入手した折、隣に「米国人看護教練生部隊を知っていますか？第二次世界大戦を生きた日系人女性たちの物語」<sup>1)</sup>という著書があり、迷わず手にした。その著書を通じ、日系人看護職としてアメリカへ奉職することは、彼女達にとり、最大の誇りであったことを知った。シオバン氏の講演より、日系人看護職のアメリカにおける歴史を知ることができたことに感謝したい。

### 参考文献

- 1) テルマ M. ロビンソン著、安斎奈津子、上田忠、各務美香、高平知代子、長谷龍一、ヒヤシンス淳子共訳、福井あや子監訳：米国人看護教練生部隊を知っていますか？第二次世界大戦を生きた日系人女性たちの物語、バベルプレス、2008。

## 研究紹介 青森県看護教育史研究会の活動と成果

代表 大串 靖子

### 1. 研究会の成り立ち

当会は、平尾真智子先生を介し、故花田ミキ氏（元青森県看護指導監）の調査メモ（以下、花田メモ）とのめぐりあわせが契機となり平成17年6月発足した。会員は7名（小山敦代、山本春江、木村紀美、一戸とも子、早坂佳子、田中広美、大串靖子）、例会以外はe-mailで連絡しあっている。

### 2. 研究会の目的と活動

花田メモを発端として青森県内看護教育機関の開設や廃止の変遷を明らかにし、看護教育の実態を調査・分析することでその将来展望を得ることをめざしている。

隔月で研究打ち合わせ会議を例会として継続しており（平成21年11月で第27回）、研究の方向性を協議し、平常は各自テーマを決めて公務のかたわら史・資料の収集や調査活動を行っている。その他、セミナー開催、学会発表、講演（大学、高校、社会人対象の県民カレッジ等）、大学紀要等への投稿がある。研究費確保のため大学の研究費助成に応募、採用の実績もある。

### 3. 研究の成果

1) 青森県看護教育史年表—青森県内看護教育機関の開設・改廃の歴史—第2版ま

で発行した。これは花田メモを文献資料によって実証しようと試みた成果である。明治期から今日までの看護職養成の歴史を網羅した。年表は、県内全看護教育機関、母体病院、看護協会、地域の図書館、全国の看護系大学図書館、国立国会図書館、看護学歴史研究者等へ寄贈し、資料や教材として供覧させていただいている。

2) 既刊の研究成果：論文、( ) は代表執筆者 (1)青森県内看護教育機関の属性と史(資)料所蔵状況調査(田中)、(2)日赤青森県支部救護看護婦養成(大串)、(3)県立青森病院看護婦講習科から弘前大学医学部保健学科看護学専攻まで(一戸)、(4)高等学校衛生看護科の変遷(木村)、(5)2年課程看護婦養成所(小山)、(6)旧制女学校看護婦養成所(木村)、(7)弘前陸軍病院看護婦養成所から国立弘前病院看護学校まで(大串)、その他、公刊予定は大湊海軍共済組合病院看護婦養成所(大串)、青森県立青森高等看護学院の開設から閉院まで(山本)。学会発表(既報)として看護教育が地域の保健医療福祉に果たした役割(早坂)。

今後も「できることから、焦らずに」をモットーに熱意を失わず継続していきたい。

## 分科会活動の勧めと学術集会ワークショップ開催のお知らせ

昨年の学術集会ワークショップでは、月澤美代子氏の講義から「Global vs Local」&「Detail vs Generalization」というkey wordを学びました。参加された方々は、その後どのように芽が出て、実を結びつつ研究が進んでいますか？看護史研究の同士（本学会会員）3人以上で結成し交流しているグループがありましたら、研究活動のお力になりたいと考えております。推進委員会までお知らせください。

“学貴日新”は、東洋思想研究者内藤湖南の言葉です。「温古知新」と同様、現状のルーツと変遷を知り、将来の行く手を探るためにも「歴史の学び」は尊いのです。

「歴史を知るのは、とても楽しい、けれど研究となると…」ですが、せめて1年に1度でも、同志と顔を合わせ、研究成果に触れて、再び意欲を新たにしましょう。

第24回学術集会でもワークショップ(分科会)を開催します。詳細は次号でお知らせしますが、日程は2010年9月20日(月・祝日)午後1時～3時、テーマ：「これだけは備えておきたい～看護歴史研究の方法のキーポイント(第2弾)」講師：高橋みや子先生の予定です。

分科会の連絡先は☎092-940-2382(山本研究室) E-mail: s\_yamamoto@fukujo.ac.jp

研究活動推進委員会(山本捷子・丸山マサ美)

## 新入会員紹介(敬称略)

\* ( ) 内は会員番号

堀内 啓子 (09009)  
小野田由美子 (09010)佐藤 聡子 (09011)  
矢ヶ崎 香 (09012)三木 園生 (09013)  
俵積田ゆかり (09014)原 礼子 (09015)  
小柳 康子 (09016)

## 五史合同例会に参加して

去る12月12日(土)午後、日本医史学会、日本歯科医史学会、日本薬史学会、日本獣医史学会、日本看護歴史学会の五史学会合同例会が順天堂大学で開催されました。本学会からの参加は一昨年以降3回目ということでしたが、浅学の身を顧みず「戦前の日本赤十字社看護人の救護活動」というテーマで発表させていただきました。発表(35分)の後、質疑(5分)では看護人の入学試験や日赤看護婦・看護人養成以外の養成機関、国家試験の有無について質問がありました。これまで私は医史学会などの学術集会や例会に出たことがなかったため、今回初めて看護史以外の研究者たちの発表を聞く機会を得ました。「葛原勾当日記に記載された疾患について」(新藤恵久先生)、「薬とは何か」(遠藤次郎先生)、「日本在来馬と西洋馬」(小佐々学先生)の発表は、豊富な専門知識に裏付けられたスケー

ルの大きい内容でした。「日本のワクチン受容史」(渡部幹夫先生)の発表は、実証的方法に基づく問題史的な研究ということもあり特に興味を持ちました。今回、合同例会に参加することでいろいろ多くの刺激を受けました。懇親会ではおいしい料理をいただきながら、「看護歴史学会でも年1回の学術集会だけでなく年に何回か例会のような研究交流の場を作りたいですね」とほかの参加者と話し合いました。



(山崎裕二記)

## お知らせ

### ■事務局から

#### 平成21年度会員動向(平成21年7月末現在)

1. 会員数(特別会員1名を含む) 316名
2. 入会者数 15名
3. 退会者数 9名
4. 住所不明会員 21名

#### 会費納入のお願い

平成21年度会費(6,000円)をまだ納入されていない会員の方はすみやかに納入をお願いします。納入されませんと次年度の会報・学会誌等が送付されませんのでご注意ください。郵便振替の口座番号は01010-1-52185、加入者名は日本看護歴史学会です。

#### 所属・住所変更や退会の場合

所定の変更届や退会届を事務局にご提出ください。

#### 編集後記

日本看護歴史学会会報第53号をお届け致します。本学会の24年のあゆみを副理事長高橋みや子先生にお願い致しました。また、研究については、青森県看護教育史研究会の現状と日本看護研究学会でトロント大学教授シオバン・ネルソン氏の講演の感想を寄せていただきました。今後の本学会の益々の発展を祈念して。(つ)

### 日本看護歴史学会会報 第53号

企画・編集 坪井 良子(国際医療福祉大学大学院)  
高橋みや子(京都橘大学)

発行責任者 山崎 裕二(日本赤十字看護大学)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学

山崎 裕二

TEL 03-3409-0613

e-mail yamazaki@redcross.ac.jp

川原由佳里

TEL 03-3409-0185

FAX 03-3409-0589(代表)

e-mail kawahara@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>